



かながわ歌の旅 茅ヶ崎編①

このシリーズはリフシア発行の「ぶちらいふ」誕生の地・茅ヶ崎から始めましょう。当地は音楽の都といつていいほど多彩なゆかりの歌があります。

▽平成最後の年のNHKの紅白歌合戦で大トリの後、別枠でサザンの桑田とユーミンの「コラボで歌われた」砂まじりの茅ヶ崎・で始まる『勝手にシンドバット』は異常なほどの盛り上がりを見せたことは、今でも記憶に新しいものがあります。歌詞にあるように「砂まじりに茅ヶ崎」とは、言い得て妙な表現です。茅ヶ崎の街は相模湾から吹き付ける砂が堆積して海岸に出来た漁村からスタートしました。今でも強い南風が吹くと、柳島から江の島へ続く遊歩道は砂に埋もれて通行不能になります。東海道の南の地域は砂地であることでも分かります。徳川家康が江戸時代に街道を整備した際に東海道(今の国道1号線)は砂丘の上に出来た京阪から江戸へ通じる高速道路だったのです。それにしても、サザンオールスターズの桑田佳祐は茅ヶ崎の名を全国に広めた。その功績を讃えてか、海岸の海水浴場はサザンビーチ、彼の家が

あった南湖から駅まで行く道にはサザン通りと名付けられた道があり、南口商店街の一角にはサザン神社まであり、全国からファンが訪れるというのだから驚きです。

▽このサザンの桑田が世に出る前から加山雄三という人気歌手・俳優が居ました。1976年に、『海に抱かれて 男ならは...』と歌う『海・その愛などの海の歌は作詞石谷時子との名コンビで作られ、この歌は紅白歌合戦で3回も歌われました。かならずしも茅ヶ崎の海を歌ったわけではありませんが、海・茅ヶ崎・湘南を強く結びつけました。父親は俳優の上原謙で、東海岸から駅への道は昔、上原謙通り。今では雄三通りと呼ばれています。

▽『夕焼け小焼けの赤とんぼ...』夕方のミュージック・サイレンで市民には御馴染みの童謡「赤とんぼ」を作曲した山田耕柞は昭和の初頭、市内南湖の鉄砲通り脇に住んでいて、毎日、東京まで電車で通い、音楽活動をしていました。その車中でも「この道」「あわて床屋」「からたちの花」なども多くの童謡の作曲を手掛けました。中央公園にはオルガンを形どった記念碑が建てられ、「赤とんぼを愛する会」などのサークル活動や合唱会が今でも盛んです。(井)



新年あけましておめでとびございます 地域の皆様のご支援のもと、新しい年を迎えることができましたことを厚くお礼申し上げます。

皆様もご存知のように高齢化の進展は、2022年頃から、いわゆる団塊の世代が75歳以上の年齢に達することにより本格化します。これは世界中のどの国も経験したことのないほどのスピードで進行します。

国は、この少子高齢化という劇的に変化する人口動向を踏まえ、地域ごとに「地域包括ケアシステム」の構築を提唱しています。

このイメージは、「住まいを中心に、医療・介護・リハビリ・生活支援などが切れ目なく提供される」姿です。

リフシアは平成16年に茅ヶ崎市萩園でデイサービスを開設してから今年で16年目を迎えます。おかげさまで現在の規模は茅ヶ崎・藤沢で11拠点12事業所、このほかにセントラルキッチンタンポポを加えると、総職員数400名を超えて規模となりました。

この間、リフシアでは「心を添えてともに生きる」の理念の下、常に「住み慣れた地域での在宅生活継続」を念頭に、在宅生活を支える多様なサービスを一元的に提供可能とする「サービス・ネットワーク」の構築に努めてまいりました。

タンポポ・アドバイス

冬は重篤化しやすい ノロウイルスに注意！

冬に流行するノロウイルス。高齢者が感染すると、脱水症状や、食量・嚥下機能の低下など、重篤化する恐れがあります。今回はその感染予防についてのお話です。ノロウイルス感染予防の注意点は3つ！

- ①丁寧な手洗い ②食品の十分な加熱
- ③キッチンや調理器具の消毒

ノロウイルスの消毒には、塩素系消毒剤や煮沸での消毒が効果的です。消毒液はキッチンハイターで簡単に作れます。500mlの水に対しペットボトルキャップの半分のハイターを入れます。1lの水であればペットボトルキャップ1杯です。家族が感染した場合には、拡大を防ぐため家のトイレや手すり・ドアノブなどよく触れる場所を消毒すると効果的です。また、嘔吐・下痢などの症状が収まっても2週間～長いと1ヶ月間は便から菌が排出されます。油断せずに感染予防を続けましょう。寒い日が続きますが体調に注意し、健康な春を迎えたいですね。

編集後記 明けましておめでとうございます

新年号も無事発行することができました。本年も宜しくお願いします。

実習生が読めるよう、特集記事の全てにルビをふりたかったのですが、紙面の関係でできませんでした。凄い勢いで漢字や日本語の勉強をしているので、これからが楽しみです。

セルリさんから挿絵の投稿がありました。



お休みの日に趣味の水彩画を。セルリさん投稿の挿絵。

そしてこの「サービス・ネットワーク」は、多様な介護サービスの範囲に留まらず、在宅の食環境改善を目指した「介護食・嚥下食」の提供や、予防観念の自立者向け教室まで幅広い分野に至っています。

リフシアではこの「サービス・ネットワーク」こそが、新しい視点での介護サービス提供を可能にすると考えています。

様々なニーズを持つ高齢者の方々に、様々な専門職がそのニーズに向き合い、そして個々の有する能力に応じた生活継続のための方法を提案する。それがお客様お一人お一人の「新しい価値」につながるものと考えています。

大きな社会変化の中にある昨今。リフシアはこういった取り組みをさらに力強く推進していきたいと考えています。本年も、より良いサービス提供を目指して次のことに取り組みます。

- ①質の高いサービス提供と介護職員の専門性や接遇能力向上を図る研修の充実
- ②社内専門職(リハビリ、栄養など)がお客様の状態に応じて横断的に関わることで、在宅生活の質と継続性を高める「トータル・ケア・アセスメント」の強化

- ③今後増加が予想される、在宅での医療ニーズへの対応として看護機能の強化
- ④咀嚼や嚥下機能が低下したり、栄養制限などがあっても「おいしい食事」を口から食べ、ることを重視した食形態開発と配食
- ⑤要介護ではないが、「将来に向けて心身機能がちよつと不安」「もっと活動的に暮らしたい」といった声にお応えすべく、健康呼びかけ事業の展開

私たちリフシアは、このような幅広い取り組みを通して、いよいよ本格化する超高齢化社会を見据え、茅ヶ崎・藤沢における地域社会創造に積極的にその役割を果たすべく、職員一同、日々奮闘してまいります。

本年もぜひともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

そして皆様におかれましても、良い年になりますよう心よりお祈り申し上げます。

令和二年元旦

株式会社リフシア 常務取締役 小嶋達之



光

インドネシアから来た介護技能実習生

リフシアのグループホームで頑張っています

深刻な人手不足を背景に様々な業種で外国人労働者が就労しています。介護職も2017年11月外国人技能実習制度に追加され、インドネシア、ベトナム、カンボジア、フィリピンなど二国間取り決めに締結したアジア諸国の送出国から日本への受入が始まりました。リフシアも昨年10月と12月計6名の実習生(インドネシア)を受入れ、今年中に2名(ベトナム)入国する予定です。

インドネシアから介護福祉士を目指して

昨年リフシアで研修を始めた実習生は、インドネシアの看護系大学等を卒業し、日本語能力試験N3に合格した優秀な若者です。アジア諸国も2050年までに日本を上回るスピードで高齢化が進むと言われ、「高齢化先進国」日本の優れた介護技術を学び「母国に介護施設を作りたい」、「介護福祉士(国家資格)に合格して長く日本で働きたい」と将来の夢や希望を持って入国してきました。

受け入れには沢山の準備が必要だった

介護技能実習には固有の要件があり、コミュニケーション能力や介護技術修得に向けた実習体制の確保、研修の必須時間などが定められています。介護事業者にはこの要件を満たすよう、技能実習責任者、技能実習指導員、生活指導員の配置が義務付けられ、実習計画に沿って研修を行わなければなりません。制度の理解や日本語・介護技術の指導方法など担当者が何度も集まって打ち合わせをしました。

アブデュル・ラティフさんとリフシア神明の皆さん



11月ラティフさんの誕生日に、お客様がマフラーを編んでプレゼント。



リフシア香川のお客様と。ロシタ・デウィ・ムルニさん(写真上)セルリ・メマ・アンドリアニさん(写真左)

グループホームに思わぬ変化

一番心配したのは実習生に対する地域の方の反応でした。しかし、最初に近隣を回り彼らを紹介したのが良かったのか、とてもスムーズに受け入れてもらえました。ゴミの出し方、日本のマナー、自転車の乗り方など指導員たちが直接フォローし、休みの日には他のスタッフも一緒にバスや電車の乗り方を覚えてもらおうと江ノ島にも出かけました。配属から僅か2ヶ月後には、日常の買い物・洗濯・自炊、夜などは日本語の勉強、休みの日は電車で出かけるなど、随分日本の生活に慣れました。

グループホームでは良い変化がありました。彼らのお手本となる「スタッフの言葉遣いが良くなった」、お客様の関心が一生懸命に話を聞く実習生に集まり「ホームに活気が出て明るくなった」などです。介護の技能実習は費用も時間もかなり大変ですが、今は介護の明るい未来に繋がると信じて、長期的な視点で育成しなければなりません。

当面は全員が技能検定試験に合格できるよう、しっかりと取り組みます。



受け入れ3事業所の担当者が打合せ



受入れが始まってからは毎月監理団体が訪問し、出勤や研修状況、直接実習生と面談し健康面や様子を確認します。私たちも彼らの生活習慣や文化、宗教など、わからないことや心配なことは監理団体に相談するようにしています。



ファイサル・ムハマド・ユヌスさん(リフシア神明)



↑地域の福祉まつりに参加したセルリさんはタンポポカフェをお手伝い(香川小学校)

↑昨年12月20日からリフシア善行で実習を開始した、ロサ・オクタフィアナさん(左)、スリ・デウィ・スミアルシさん(右)。冬の寒さと日本の生活に早く慣れてくださいね!

→実習を始めて2週間後、お休みの日に江ノ島へ出かけました。

介護技能実習生受入まで



インドネシアで面接(首都ジャカルタ)



面接風景(チカランの日本語学校にて)



授業の様子



左からリフシアの小嶋常務、ロシタさん、セルリさん、実習担当三島(2018.11.15現地にて)



入国後監理団体(介護施設協同組合)で2ヶ月間、日本の生活文化や言葉を学び、介護職初任者研修を修了した(2019.10閉校式・長野県)



リフシア萩園を見学する実習生



ハロウィンを楽しむ101歳のお客様とファイサルさん